

## 〔国際金融都市 OSAKA 推進委員会 取組共有（第4弾）〕

### ご紹介委員：株式会社大阪取引所

大阪取引所では、日本取引所グループの西の拠点として、金融経済教育を実施しています。東の拠点は東京証券取引所がその場所となります。一般的な、株式、デリバティブの金融リテラシー教育活動は、この東西2つの拠点を中心とし、現物、デリバティブとも、取引所の本社所在地の分け隔てなく実施しているところです。

そのような位置づけではありますが、“大阪”の特徴として、日本の取引所の起源とされるとともに、世界における組織的な先物取引所の先駆けとして広く知られている堂島米市場の歴史があるとともに、今の日本における上場デリバティブの中心が大阪取引所であることを踏まえ、株式に関する教育活動に加え、国内外に「デリバティブの大阪」を情報発信することを重点目標として取り組んでいるところです。

### ○ OSE ギャラリー（大阪取引所5F）



現在、団体見学、自由見学とも自粛していますが、6月より、オンライン見学も始めています。

2015年2月に、リニューアルした見学施設です。JPXの発足、また国内外から見学も増加してきたことから、日英表記を原則とし施設を作っています。明治以降の日本における株式会社普及に合わせた大阪株式取引所の歴史から、株式市場より古い大阪のデリバティブの歴史などを紹介し、日本経済の一つの側面を学んでいただいています。2020年7月の総合取引所化以降は、金、銀、ゴム、石油などのコモディティも一部展示するようになりました。コモディティが追加されたことで、より幅広く取引所機能を学んでいただける施設となったのではないかと考えています。現在は、コロナ禍の中で、実見学を制限している関係でオンライン見学等が主となっていますが、再開となれば、また実見学で金融、経済を学んでいただきたいと考えています。

OSE ギャラリーの紹介動画

[https://www.youtube.com/watch?v=TufIG\\_lkU0o](https://www.youtube.com/watch?v=TufIG_lkU0o) ※英語字幕バージョンあり

### ○ 「一粒の光」の設置



中之島、大江橋北詰から渡辺橋北詰の間の長い道路上で取引が行われていました。事務所のあった位置が、およそガーデンブリッジの北詰あたりとなります。

2018年10月、日本における株価指数先物30年の節目に、関係者のご協力のもと、堂島米市場跡に新モニュメント「一粒の光」を設置させていただきました。多くの方に知っていただくために、専用ホームページ（13か国語）も作成いたしました。

<https://www.jpx.co.jp/dojima/>

※新しいモニュメント設置に際しては、「大阪商工会議所 碑を観光に生かすための提言」を参考にさせていただいた経緯があります。また、設置場所は、大阪市等の協力をいただきました。

直近では、堂島米市場について学ぶ YouTube 動画を作成、各藩が発行する米切手を代表する建物米（今という株価指数）を作り出し、それを対象とした先物が売買されていたことなどのイノベーションを紹介しています。単なる歴史だけでない、現在にも通じるところが海外でも評価される場所であり、デリバティブを学ぶ授業で取り上げられる理由となっています。

- 1 堂島米市場 プロローグ <https://www.youtube.com/watch?v=OOOnAE5Hazk>
  - 2 堂島米市場 大坂に生まれる <https://www.youtube.com/watch?v=B23BrQtmKIs>
  - 3 堂島米市場 市場の仕組み [https://www.youtube.com/watch?v=rKXN\\_dF03VE](https://www.youtube.com/watch?v=rKXN_dF03VE)
  - 4 堂島米市場 帳合米というイノベーション <https://www.youtube.com/watch?v=YzcRPhXEtHo>
  - 5 旗振り通信（準備中）、6 江戸時代における投資との接し方（準備中）
- ※英語字幕バージョンあり。

さて、冒頭で大阪取引所は、JPX の西の拠点と紹介させていただきました。金融教育以外の事例も紹介させていただきます。その一つが、北浜にある大阪証券記者クラブを通じた情報発信です。

関西には、600 社以上の上場会社が存在し、上場会社はインターネットを通じた情報発信に加え、新聞社、放送局などのメディアに直接会見を行い、情報発信を行っています。主には、業績の動向であり、本決算、中間（2Q）決算、会社によっては4半期決算です。また、事業における重要な事象があった場合や新社長就任などでも利用がされています。

## ○ 上場会社の効率的な情報発信の場を提供



上場会社の決算発表風景（5F）

想定される記者の人数により、4F, 5F のスペースを使い分け。

取引所の4Fにある大阪証券記者クラブでは、コロナ禍以前は年間延べ800社以上、コロナ禍の中では制限しつつ年間延べ300社の会見のサポートをしています。以前であれば、決算発表が集中する時期には、関係者で騒々しい風景が報道もされていたので、ご存じの方も多いかもかもしれません。

その発信のためのスペース貸し出し（無料）、時間調整を取引所ではさせていただいています。最近では、コロナ禍の中での記者への連絡ツール（記者向けのメーリングリスト）を作成、実情に応じた効率的なサポートを常々、模索しているところです。

コロナ禍が長期間に渡り、大阪証券記者クラブでも、オンライン会見も重要な手段として機能することがわかってきました。手段の多様化はこれからも進むと思いますが、今後も、関西の上場会社の情報発信を積極的にサポートしていきたいと考えています。